椙山歴史文化館ニュース

Vol. 1 8

2017.12.8

企画展 「測る~美しさと着やすさを求めて~」

椙山女学園歴史文化館館長 椙山美恵子

人は衣服を身につける時、着やすく美しく装いたいと考えます。そうした願いを実現するために、衣服の制作においては、衣服の機能性とデザイン性の追及の基礎となる「測る」ことが研究されてきました。

今回の企画展では、1970 年から 2000 年頃の本学園の被服教育・研究において使用されてきた、[測る]をテーマとした機器類の数々を展示しました。実証的にまた科学的に測るための先進的な取り組みを実施してきた本学園の歴史の一端を、機器を通して振り返る中で、そこに関ってきた学生や教員の努力や熱意、測ることの奥深さを知ることができます。測る歴史が今に伝えるものを感じ取っていただければ幸いです。[展示に際しては冨田明美(椙山女学園大学名誉教授)氏の全面的なご協力をいただきました]

「測る」ことに活躍した機器

椙山女学園大学 名誉教授 冨田明美 今回の企画展は、家政学部→生活科学部・被服学 科→生活環境学科において1970年~2000年頃、学生 の卒業研究および実験・実習の授業、また教員の研 究などで測ることを目的に使われてきた機器を紹介 するものです。1970年代当時、最先端の3次元計測機 器として開発されたモアレカメラFM-80など現存す るものがほとんど見当たらない貴重な機器も含まれ ています。

展示機器は、概ね「体型を測る」、「アパレルの設計・製作で測る」、「アパレルの機能を測る」のジャンルに分けられます。さらに「体型を測る」に分類されるものには、高径、幅径、厚径、体表長などを数字で読みとるもの、トルソーや体表シェルなど体型そのものを再現するもの、写真など影像で体型を読みとるものがあります。「アパレルの設計・製作で測る」に分類されるものには、素材の長さを測るもの、パターン作成時に定規として用いるもの、パターンなどの線長を測るもの、着装状態で寸法を決めるときに用いるものなどがあります。「アパレ



ル機能を測る」に分類されるものには、アパレルの体型適合性を評価するもの、アパレルの保温性を評価するもの、 アパレルの生体負荷を評価するもの、アパレルの色認識を評価するものがあります。

多くは現役を引退し、歴史文化館に大切に保存され、測る歴史を物語る機器ですが、今もなお教育・研究現場で使



用されているものもあります。昨今、計測機能とデータ処理機能を併せもつ計測機器が多く開発され、測定精度の向上やデータ処理時間の短縮が可能になってきました。一方で、コンピュータOS、それに伴うソフトウエアのライフサイクルが非常に短くなり、機器の寿命も短くなってきました。そのため、測ることの原理や意義が分かりづらくもなっています。測ることに長く活躍した展示機器たちは、こうした失われつつある原理や意義の理解、また、身近にある機器の活用に

役立つと思います。

温故知新ではありませんが、本展示機器から測る歴史を学び、そこから創造のために必要な測定方法や機器の開発に繋がるアイディアが生まれることを期待しています。

測る~美しさと着やすさを求めて~ 開催

【会 場】 椙山女学園歴史文化館(図書館4F)文化展示室

【期 間】 2017年11月8日~2018年6月29日

【開催日時】 毎週水曜日・金曜日 10:00~17:00



歴史文化館で新鮮な気づき――大学1年生、全員来館

大学ではこの4月から新しい人間論、自校教育が始まりました。その中の自校史教育では、歴史文化館が制作に関った「椙山女学園のあゆみ」の冊子と DVD が利用されています。講義後、学生は各自で来館し、館で用意したワークシートに従って実際のモノを見学し、またそれぞれの興味や関心事に従って様々な発見や気づきをしながら楽しんで見学する様子が見られました。以下に学生たちの発見や気づきの一端を紹介します。

〈生徒の思い出の品〉

刺繍板のクオリティが高く、驚きました。昔の生徒が刺繍をし、 足袋や縫いぐるみの型紙を作るなどして、今の専門学校が行って いるような事に取り組んでいて感心しました。昔の女性は何でも 作れるイメージがありますが、学校を通し、このように学ぶこと で、より専門的な技術を得られるのだと思いました。





〈正弌記念室について〉

まず、登って行く螺旋階段に心がときめきました。

上がってみると歴史の匂いを感じました。

紋付き袴やコートを見て、本当にこういう服装をしていた時代があったのだなと改めて思いました。神棚やお茶の為の釜からも時代を感じる事ができ、こんな雰囲気の部屋や建物のある時代が好きなのでまた来たいと思いました。

〈絵葉書に見る学園・生徒の姿〉

明治や大正時代の学園や生徒の事はイメージがしにくい所がありましたが、このカラフルで可愛らしい絵葉書や潮干狩りを楽しむ姿を見て、昔も今のように活発な生徒がたくさんいたのだと親近感がわきました。





〈正弌記念室について〉

今子さん自作の小物入れに関心を持ちました。ショーケースに ぎっしりと作品が並べられていて様々な布を使って沢山の種類が 残されていました。パンフレットを見ると「教材として使われたと 思われる」と書いてあり、今子さんの作品は、時代を切り開いて きた人々に伝えられた歴史あるものなのだなと思うと、とても感動 しました。

〈明治38年(椙山女学園創立の年〉

4月1日発行の新愛知新聞(中日新聞前身のひとつ)〉

現在ある新聞とはかなり異なる点がありました。

印刷されている文字がかなり小さく、広告が少ないと思いました。 現在の新聞を読むのでさえ私自身面倒だと感じるのに、当時の人々 はこの新聞をよく読んでいたなと感心しました。





〈家庭科教材(昭和初期)〉

家庭科教材の標本を見て、椙山女学園が元々は裁縫を専門とした 学校だったという事を改めて実感しました。昭和初期でもこれだけ専 門的な教育が行われていた事にすごいなと感心しました。この時代に は、これだけ女性が裁縫の技術を身につける事を必要とされていたの だと、教材の標本が物語っていると感じました。

企画展 生活環境デザイン学科 卒業研究作品展 終了

平成29年7月9日(日)~平成29年10月21日(土)の期間中、多くの方に足をお運びいただきました。今回の展示は、学生が4年間の集大成として学んできたこと、さらには、授業以外からも各々が学んだ技術や発想から生まれた作品が並び、華やかな展示となりました。「生活環境デザイン学科展」(通称)は、椙山女学園歴史文化館の企画展を募集したところ、企画応募があり、平成23年3月に第1回が開催され、現在7回目の開催となりました。企画展は、広く学園内外から企画を募集していますが、生活環境デザイン学科では、毎年応募があり、大学で開催されるオープンキャンパスの見学会場としても利用されています。



学園キャンパス航空写真パネルが新しくなりました。

2009年(平成21)に椙山女学園歴史文化館の開館と同時に設置した学園キャンパス航空写真パネルですが、 写真自体は2005年(平成17)に撮影されたものでした。その後、各キャンパスでは、校舎の建て替えなどによ り写真とは大きく異なる状況になってきたことから、今回新たに撮影された航空写真を使用してパネルを作り直しま した。

以前のものより、写真が鮮明で、最新の学園キャンパスの全貌を見ていただくことができます。

変化したところは・・・

- 1. 小学校校舎新築・校地の拡大
- 2. 幼稚園舎の新築・保育園の開設
- 3. 教育学部・看護学部の開設
- 4. 星が丘キャンパス校地拡大(星が丘東グランド)





: 部:生活科学部 国際コミュニケーション学部 文化情報学部 現代マネジメント学部 教育学部 看護学部 (発科:生活科学研究科 現代マネジメント研究科 教育学研究科

山添キャンパス Yamazoe Campus









日進キャンパス Nisshin Campus



【編集後記】

企画展「生活環境デザイン学科 卒業研究作品展」では多 くの方に足をお運びいただきました。ご協力くださった先生 方、学生の皆様に御礼申し上げます。

現在は、「測る~美しさと着やすさを求めて~」の企画展が 開催中です。また、新しくなった学園キャンパス航空写真で、 学園の全貌をご覧になれます。ぜひ、足をお運びください。

椙山歴史文化館ニュース 第18号

発 行 日 2017年(平成29年) 12月8日 編集・発行 椙山女学園歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052 (781) 1186 (代)

052 (781) 4590 (直)

編集担当者 椙山美恵子 村瀬輝恭 山田友紀